



## H コマンド

ここでは、[h] から始まる Cisco NX-OS ユニキャスト ルーティング コマンドについて説明します。

### hello-interval (OSPF virtual link)

Cisco NX-OS が OSPF (Open Shortest Path First) 仮想リンクで送信する hello パケット間の間隔を指定するには、**hello-interval** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**hello-interval** *seconds*

**no hello-interval**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i> hello 間隔 (秒)。値は特定の仮想リンク上のすべてのノードで同じである必要があります。範囲は 1 ~ 65535 です。				
<b>デフォルト</b>	10 秒				
<b>コマンドモード</b>	仮想リンク コンフィギュレーション				
<b>サポートされるユーザロール</b>	ネットワーク管理者 VDC 管理者				
<b>コマンド履歴</b>	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				
<b>使用上のガイドライン</b>	仮想リンク コンフィギュレーション モードで <b>hello-interval</b> コマンドを使用し、仮想リンクの OSPF に hello 間隔を設定します。hello 間隔を短くすると、トポロジの変更が速く検出されますが、ルーティングトラフィックが多くなります。hello 間隔は、仮想リンク上のすべてのデバイスで同じである必要があります。  このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。				

## ■ hello-interval (OSPF virtual link)

---

例

次に、hello 間隔を 15 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# router ospf 202
switch(config-router)# ip ospf area 99 virtual-link 192.0.2.4
switch(config-router-vlink)# hello-interval 15
```

---

関連コマンド

コマンド	説明
<b>dead-interval (virtual link)</b>	ローカルデバイスが hello パケットを受信しない場合に、ネイバーがダウンしていることを宣言する時間を設定します。

---

## hello-interval (OSPFv3 virtual link)

Cisco NX-OS が OSPFv3 (Open Shortest Path First バージョン 3) 仮想リンクで送信する hello パケット間の間隔を指定するには、**hello-interval** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**hello-interval** *seconds*

**no hello-interval**

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i>	hello 間隔 (秒)。値は特定の仮想リンク上のすべてのノードで同じである必要があります。範囲は 1 ~ 65535 です。
------------------	----------------	---

<b>デフォルト</b>	10 秒
--------------	------

<b>コマンドモード</b>	仮想リンク コンフィギュレーション
----------------	-------------------

<b>サポートされるユーザロール</b>	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------------	----------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**

仮想リンク コンフィギュレーション モードで **hello-interval** コマンドを使用し、仮想リンクの OSPFv3 に hello 間隔を設定します。hello 間隔を短くすると、トポロジの変更が速く検出されますが、ルーティングトラフィックが多くなります。hello 間隔は、仮想リンク上のすべてのデバイスで同じである必要があります。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

**例**

次に、hello 間隔を 15 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# router ospfv3 202
switch(config-router)# ipv6 ospfv3 area 99 virtual-link 192.0.2.4
switch(config-router-vlink)# hello-interval 15
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>dead-interval (OSPFv3 virtual link)</b>	ローカル デバイスが hello パケットを受信しない場合に、ネイバーがダウンしていることを宣言する時間を設定します。

# hostname dynamic

Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) のダイナミック ホスト名の交換をイネーブルにするには、**hostname dynamic** コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。IS-IS のダイナミック ホスト名の交換をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**hostname name**

**no hostname name**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**コマンドのデフォルト設定** デフォルトでは、ダイナミック ホスト名はディセーブルです。

**コマンド モード** ルータ コンフィギュレーション  
VRF コンフィギュレーション

**サポートされるユーザ ロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **hostname dynamic** コマンドを使用すると、IS-IS ルータは、ホスト名を IS-IS ネットワーク上のシステム ID マッピング情報にフラッディングできるようになります。

このコマンドでは Enterprise Services ライセンスが必要です。

**例** 次に、IS-IS のダイナミック ホスト名の交換をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config-router)# hostname dynamic
switch(config-router)#
```

次に、IS-IS のダイナミック ホスト名の交換をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config-router)# no hostname dynamic
switch(config-router)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>exit</b>	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。
	<b>feature isis</b>	ルータでの IS-IS をイネーブルにします。
	<b>no</b>	コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定にします。
	<b>router isis</b>	IS-IS をイネーブルにします。
	<b>show isis hostname</b>	IS-IS ダイナミック ホスト名の交換情報を表示します。

# hsrp

Hot Standby Router Protocol (HSRP; ホットスタンバイ ルータ プロトコル) コンフィギュレーション モードを開始して HSRP グループを作成するには、**hsrp** コマンドを使用します。HSRP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**hsrp** *group-number*

**no hsrp** *group-number*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>group-number</i>	ギガビットイーサネット ポートで設定できる HSRP グループの数 (主要なインターフェイスおよびサブインターフェイスを含む)。範囲は 1 ~ 255 で、デフォルトは 0 です。
------------------	---------------------	--

**デフォルト**                      ディセーブル

**コマンド モード**                      インターフェイス コンフィギュレーション

**サポートされるユーザ ロール**                      スーパーユーザ  
VDC 管理者

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**                      HSRP オプションを設定するか HSRP グループを作成する前に、HSRP をグローバルにイネーブルにする必要があります。

このコマンドではライセンスは不要です。

**例**    次に、HSRP グループを作成してアクティベートする例を示します。

```
switch# configure t
switch(config)# interface ethernet 0
switch(config-if)# ip address 172.16.6.5 255.255.255.0
switch(config-if)# hsrp 1
switch(config-if-hsrp)#
```

<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	<b>feature hsrp</b>	HSRP の設定をイネーブルにします。
	<b>show hsrp</b>	HSRP 情報を表示します。
	<b>ip address</b>	HSRP グループの仮想 IP アドレスを作成します。IP アドレスは、インターフェイス IP アドレスと同じサブネット内になければなりません。

